

一牧師室より一

教会の少ない地方の場合、他教派との交わりは盛んである。私は数人のカトリック教会の神父と知り合った。その方々は皆、プロテスタント教会の教条主義的な牧師より、はるかに自由で開かれていた。又第二バチカン公会議の「公文書全集」を読んで、カトリック教会に更に親しみを覚えた。一度私たちの教会に神父を招いて集会をしたいと思っていた。Hさんから、聖イグナチオ教会のイシドロ・リバス神父を紹介され、特別伝道集会にお招きできた。大変楽しく有意義な集会で、新来会者も35名あった。夜の講演は「自分である喜び」、主日礼拝説教は「ゆるされた喜び」と題して連続した内容のお話しをしてくださった。講演では、人間が意識する部分はほんの少力で、その下の大半を占める無意識の部分で不安と恐れに取り囲まれ、堂々巡りの苦しみにあえいでいる。しかし、その下に至聖所があり、ルッアッハー（霊）の息吹に包まれている。ルッアッハーは人の悪評価や自己

否定さえ越えて永遠の神から、私に「いてほしい」と語りかけている。「自分である喜び」を全身で受け止めよと語られた。説教では、人間の最も深い求めは「ゆるし」である。従ってゆるされないことは悲劇であり、自分をゆるせないことは更なる絶望である。しかし人間の罪を知りつつも、愛し続け、信じ続け、励まし生かし続けてくださる方がおられる。この大きな「ゆるし」の中に私たちはあると語られた。神父は、人間の悶々とした苦悩とそれからの喜ばしい解放をカセットテープでバッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどの音楽を用い、感性にも訴えて説き明かされた。大変納得させられ、又ユーモアに富んだお話しに爆笑させられた。

この日は五百年前ルターが起こした宗教改革の記念日で、意義深い礼拝になった。神父は「今日、始めてプロテスタント教会ができたことを神に感謝しました」と語られた。そして見送りに行った駅で「大変良い体験をしました」と喜んでくださった。

週 報

1993年11月7日 降誕前第7主日

聖徒の日（永眠者記念日）

巻14 32号

1993年度教会主題

「キリストが私たちの内に形づくられる」

聖句 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」そして、看守とその家の人たちが全部に主の言葉を語った。

使徒言行録 16章31節～32節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 教会の組織を再検討し、キリストの体を作る。
 3. 家族こぞって主イエスを賛美する。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323 振替 横浜 9-13994

牧師 秋 吉 隆 雄

牧師宅 電話 045-833-6616